

高校入試対策(数学) in 山形

▶ 2024. 11. 22 (金)

人生を左右する重要な選択

高校入試対策の学習で一番大切なことは「何を学ぶか」です。

「どのように学習するか」ではなく、「どんな”教材”を学ぶか」です。

志望校の合否を左右する、言い換えれば、あなたの人生を左右する重要な選択といえます。

出題されそうもない範囲やレベルの問題を、いくら解けるようになったとしても、肝心の出題される問題が解けなければ、志望校には合格できません。

「当たり前でしょうが…」といわれそうですが、この「当たり前の学習」をやっていない生徒というのがけっこう、いらっしゃいます。

つまり、わけのわからない「山形県公立高校入試対策問題集」などにかじりついて、解けない問題を塾へもってきて、教えてくださいというのです。

その解けない問題を見ると、これは山形県の公立高校入試には絶対出ない範囲とレベルの問題なんです。今、こんな問題をやっている時間などないはずですよ。

このような問題集を使って受験勉強をすることは、「無駄」というようなものではなく、3年生の12月時点では「危険」です。

つまり、今、そんな勉強をしていたら志望校に合格できなくなってしまうんです。

ところで、この問題集の表紙だけをそのまま「宮城県」と刷り変えたら隣の県でも売れそうな問題集です。いや、全国のどの県でも売れます。表紙に「〇〇県高校入試対策問題集」と印刷すればいいだけですから…。

では、何を学ぶべきか？

志望校に合格する勉強方法はただ1つです。

「出た問題はすべて解けるようにしておく」ことです。

だから、なにがどのようなレベルで出題されたのかを知ることから受験勉強は始まります。え？

そんなこと分かるの？

はい、山形県公立高校入試の場合はとてもよく分かるのです。

証明しましょう。

山形県公立高校入試出題問題(過去問)をご覧ください。

数専ゼミのホームページです：

suusenn.com → [サイトマップ](#) → 山形県公立高校入試問題 → 年度別出題内容分析
過去6年分の山形県公立高校入試出題問題とその出題内容の分析が紹介してあります。

出題年度ごとの全問題が紹介してあります。(平成31年度から令和6年度までの6年分)
各年度の入試問題の個々の問題について、
出題単元、出題問題、配点、難易度(A, B, C, Dの4段階)
が分析、紹介してあります。

これを見ると、どんな単元のどんな内容が、何点配点で、どの程度の難しさで出題されたのかが分かります。

しかも、毎年、非常に類似していることがわかります。

ということは、この傾向に沿って勉強すれば、かなりの高得点が得られるということです。

具体的には、次のように勉強します。

短期間で一気に得点力を身につける学習法

数学が苦手な人でも、数学が得意になるというのではなく、入試で高得点を取るだけならだれにでも短期間でできます。

次の2つの方向で、同時に学習を進めていきます。(数専ゼミの受験指導内容です。)

(1) 配点が高く、難しい問題対策

単元でいえば、方程式文章題、1次関数、関数(曲線)、図形の総合問題です。

これらを、単元別に令和6年度から遡って30年分くらいまで学習します。

(数専ゼミでは50年分の過去問を用意してあります。)

5年ほどやってもだめです。その範囲の外から出題されます。

少なくとも30年分くらいやっておくとほぼ出題範囲とレベルをカバーできます。市販の対策問題集の数倍の精度でねらい打ちできます。つまり、”出る”問題を解く力を身につけることができるようになります。

年度別に学習すると、単元ごとの出題傾向(内容と難易度)がつかみにくくなります。

数専ゼミでは、単元別に学習できるように編集したオリジナル教材を使って学習します。

直接、過去問を解くことから始めます。到達学力をチェックするためにです。

解けないときは、どんな学力が足りないのかを診断します。必要ならば基礎部分の復習をします(下記の記事「”基礎”を学ぶことの大切さ」を参照)。

過去問は、自力で解けるようになるまで繰り返し練習します。

(2) 配点が小さく、1分～5分以内で解ける問題対策

計算小問、作図、確率・統計問題です。(1番問題のすべてと、2番問題の一部です。)

これはひとりでする受験対策学習です。

塾から、毎週、1年度分ずつ「過去問と解説」を渡します。

これらを家で自分で学習します。30分ほどで終わります。

解説を読んでも理解できないときは、塾へもって行って先生から教えてもらいます。

“実戦力”はどのように学ぶか

「入試で得点を最大化する」技術を習得することも、受験対策の重要な課題です。

・ どの問題から解き始めるか。

戦略は次の通りです。

まず、**1**番問題はすべて解きます。30点前後の配点です。

次に、**2**番問題のうち、作図、確率・統計の問題を解きます。

解けない問題があったら飛ばします。

解答書に配点を書いてあるので、捨てた点数が分かります。(入試は100点を取るのではなく、合格点を取ることです。しかも、確実に…。だから、解けない問題は早めに捨て、解ける問題で確実に点をかせぐことです。)

次に、**2**番問題のうち、方程式の文章題を解きます。1次方程式が連立方程式のどちらかを選んで解く問題です。まず、連立方程式で解いてみます。こちらのほうが易しいからです。

うまく解けなかったら1次方程式で解きます。

次に、**2**番問題のうち、比例・反比例と融合した2次関数の問題を解きます。

(1)は必ず解けます。(2)は難しくなる年度があります。解き方の方針が思い浮かばないときは捨てます。

次に、**3**番問題の1次関数を解きます。最後の問題2は解けないときは捨てます。

次に、**4**番問題の図形の総合問題を解きます。

最後の問題は解く必要はありません。こんな問題にかかっていると時間がなくなります。受験生の9割の人が時間内には解けない問題です。安心して捨ててください。

これらを、実際の過去問(年度別問題)を使って、入試の時間と同じく50分間で解く訓練をします。

5年分で十分です。個々の問題の解き方を覚える学習ではなく、50分間でできるだけ高い点数をとる練習です。この学習の目的を間違えないようにしましょう。

繰り返すことで、高得点をとる技術を身につけることができます。

なお、年度別入試問題は、無料で何枚でもあげます。納得いくまで練習してください。

これが、受験1か月前にやる課題です。(受験1か月前は2月7日です。)

単元別学習や基礎学習については、並行して続けます。

・ 確かめはどうするか。

確かめは、時間があれば**1**番問題だけやります。他の問題については、確かめる時間などないと考えておきましょう。

間違えないように解くことに注意を集中することが大切です。2度と見返さないという気持ちで解くことです。

これで安定して84点がとれるようになることが目標です。山形東に合格できる得点です。

(5教科合計で420点を取ることを目標とする場合です。)

”基礎”を学ぶことの大切さ

解けない入試問題があるときは、それを解くのに必要な基礎知識や技術を復習しなければなりません。ただ、解けなかった問題の解き方を理解し、覚えたところで、たとえ同じような問題であっても初見の入試問題を解くことができるかどうかはわかりません。そのような”危険な”学習をしないのが合格できる受験対策です。

とくに、1次関数や図形の総合問題では、その問題を解く時に使わなければならない知識や解法技術をもっていないときは、どれだけ入試問題の解き方を覚えたとしても初見の入試問題が解けるようにはなりません。

入試問題を解く時に使う基礎をきちんと学びなおすことは、一人では絶対にできません。どんな基礎が足りないのか、どんな教材を使って学べばいいのか等々はひとりではわかりません。だから、入試問題のすみからすみまで知り尽くした専門家の指導を受ける必要があります。早急に基礎を固めて入試問題の学習へ戻る必要があります。

山形県公立高校受験対策(数学&英語)指導

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp

基礎とテスト対策は数専ゼミで！

- 在籍学年に関係なく、算数・数学のどの分野でも学習できます。
いつからでも、どこからでも、始められます。
- 他塾に在籍していても、**数専ゼミで「算数・数学」**だけ指導を受けることもできます。

* コマーシャル 数専ゼミ・山形東原教室 → Link: | [入学案内書](#) |